

第3回災害対策委員会を開催しました！

11月29日（月曜日）、ウェブ会議システムを使用し『2021年度第3回災害対策委員会』を開催しました。今回は、社会福祉法人千葉県社会福祉協議会の鈴木鉄也事務局次長兼地域福祉推進部長に『千葉県災害ボランティアセンターの活動について』説明をいただきました。千葉県生協連災害対策委員、事務局など合わせて10名の参加がありました。

① 千葉県災害ボランティアセンターの概要と実際

鈴木鉄也部長

はじめに、令和元年房総半島を襲った台風、大雨の被害の状況と被災後、被害のあった市町村で開設されたボランティアセンターでの屋根の修理や倒木処理などプロボノの人を中心にボランティア活動をしている様子や県災害ボランティアセンターが設置され、被災状況やニーズなどの連絡調整などの活動について写真を見ながら説明がありました。次に千葉県ボランティアセンターの設置・運営・役割、開設状況などについて詳しい説明がありました。



② 市町村災害ボランティアセンター活動のしくみ

近年被災地ではボランティア活動と被災者をつなげる「災害ボランティアセンター」が設置され、支援活動がおこなわれることが浸透してきました。ボランティアセンターは各市町村社協が運営していますが運営に際して被災者中心、地元主体、協働の3つの原則を基に、復旧・復興に向けて被災者の自立・生活再建のための支援、被災者に寄り添った様々な活動の展開、行政やNPO等が行う多様な支援の調整などをおこなっています。

③ 生協に期待すること

【平常時では】

- ・組合員への災害に対する広報・啓発（災害訓練の実施）
- ・当該市町村社協との「顔の見える関係」づくり
- ・災害ボランティアセンター設置・運営訓練への参加 などなど

【災害時では】

- ・組合員の安否確認、声掛け（安心感を与える）
災害ボランティアセンターの案内（見えにくいニーズに応える）
- ・県災害ボランティアセンターの運営参画 などなど

鈴木部長の説明を聞いた後、市町村社協との「顔の見える関係」づくりの方法、災害時だけでなく平時から顔の見える関係づくり、地区社協との連携の進め方、県連災害対策委員会の中で、宅配時に出来ること、被災現場での対応、復興に向けての支援などお互いの協力体制についてなどたくさんの意見や感想、質問が出され懇談をおこないました。

- 各生協からは、防災訓練を実施し各センターの防災備品のチェックと使用方法の確認をおこなったこと、安否確認訓練をおこなったこと、BCPの検証訓練の予定やBCPマニュアルの改訂の検討などについての報告がありました。
- 日本生協連からは、NPO法人全国災害簿蘭亭ア支援団体ネットワーク（JVOAD）が11月1日に「災害支援そなえ令和基金」を設立したこと、12月1日にオンライン記念シンポジウムが開催されることの報告がありました。
- 千葉県連事務局からは、第42回九都県市合同防災訓練（千葉会場）に参加したことと、災害手順書をもとに物資の調達に関連した実践に即した訓練の計画について1月19日に千葉県がおこなう予定の図上訓練で各生協と訓練を検討していることの報告がありました。

